

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪工業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカコウギョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	工学研究科、知的財産研究科、情報科学研究科、工学部、知的財産学部
	担当教職員名・役職	就職部就職課
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	224
	受入企業等数	257
	受入企業等名	関西電子情報産業協同組合、兵庫県経営者協会、和歌山県経営者協会、情報エンジニアリング協会、東大阪商工会議所、㈱IAO竹田設計、㈱IHIインフラ建設、IDEC㈱、青木あすなろ建設㈱、㈱池下設計、㈱内田洋行、㈱奥村組、オセアニア交流センター㈱、鹿島建設㈱、㈱加貫ローラ、協和テクノロジズ㈱、㈱鴻池組、五洋建設㈱、佐藤工業㈱、㈱三社電機製作所、㈱サンセイテクノス、シバタ工業㈱、住友電設㈱、センコー情報システム㈱、大成建設㈱、大日本除虫菊㈱、㈱ダイフク高砂熱学工業㈱、高松建設㈱、寺崎電気産業㈱、東洋電機㈱、土木学会関西支部、豊中市伊丹市クリーンランド、トレックス・セミコンダクター㈱、㈱トンボ、㈱ナカノフード建設、西松建設㈱、㈱ノーケン、㈱乃村工藝社、㈱服部建築事務所、防衛省・自衛隊大阪地方協力本部、前田道路㈱、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング㈱、西野田工科高等学校、淀川工科高等学校、茨木工科高等学校、都島工業高等学校
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ、4.他県をまたぐ広域インターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)、3.その他
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	経営者との懇談や先輩社員との議論を行うことによって勤労観や就業感などを養うプログラムを実施。
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	就業体験内容は各企業で設定され、研究開発や設計・製造現場のサポートをはじめ、営業同行のほか事務的職種など多様なメニューがある。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	院1年次、学部3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位、2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	情報科学部を除く学部・大学院のみ選択科目として単位化している。情報科学研究科のみ1単位でその他は2単位を付与している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している、5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	本学インターンシッププログラム受入先(研修先)やOBOG在職の有無等、受入企業とのつながりを学生へ伝えている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	仕事と学びとの関連付けや社会人として働く意味の理解を目的としたインターンシップの意義概論(第1回)やプレゼンテーション講習(第2～5回)、ビジネスマナー研修(第6回)、先輩の体験報告会(第7回)を聞き、職場での実体験に送り出している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	全2回の事後学習の中で、就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的でインターンシップ後にレポートを提出させ、その記載内容についてグループで発表・共有させている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教職員がインターンシップ中に企業に出向き、学生の激励およびプログラム取り組み状況の視察を実施している。
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後にアンケートを実施し、事前学習等のプログラムに対する評価や研修した仕事内容・量等の企業評価についての回答を集約し、次年度のプログラム構築とマッチング・満足度向上につなげている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前事後学習の日程を含まず、夏期休業中の最低5日間以上の実施期間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業担当者にも学生の実習評価を依頼し、成績評価の参考としている。具体的には評価項目に【出席状況・身だしなみ、マナー】、【実習態度】、【協調性(コミュニケーション能力)】、【実行力】、【報告・相談】、【総合評価】の6つを設定し、それぞれを5段階で評価している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	シラバス検索 https://www.portal.oit.ac.jp/CAMJWEB/slbssrch.do インターンシップページ http://www.oit.ac.jp/japanese/career/for_com.html
問い合わせ先	大学等名	大阪工業大学
	担当部署名	就職部就職課
	担当者役職名	係長 村上 一葉、課員 仁木駿佑
	担当者氏名	係長 村上 一葉、課員 仁木駿佑
	電話番号	06-6954-4093
	メールアドレス	OIT.Shushoku@josho.ac.jp